

## ゆきかき

3月に入り、二十四節気の「啓蟄」を迎えたものの、石狩はようやく木漏れ日からいささかの温もりを感じる程度であつて、土中から虫たちが動き出すにはまだ暫くかかる。しかし、この二文字は地味ではあるが、冬籠れる石狩の大地を寂寞の世界から解き放つ季節感を伝えてくれる。▼昨年引き続きの豪雪、ほぼ毎日の雪かきは苦役の辛さと嘆く方、いや、健康のため汗を流す楽しみもあるとの年長者も少なくはない。自らの鼓動を感じつつも、心身のバランスを整えてくれる。さすがに※月に向かつて吠えはしないだろうが、時には明けの明星との巡り合わせに心洗われることもあるろう。▼排雪の山はピークをむかえてきた。巨大な雪山は地域エネルギーとしての可能性を秘めた冷気の山とも言える。雪かきも集めるとエネルギーへとなる時は遠くない。雪・月・花は古典文学をなす。だが、来る人々は雪降る景色を何と表現するのか。(市長)

※萩原朔太郎「月に吠える」より

## 広告